# 日米人形交流から考える千葉の未来

## ー多文化共生・こども・異文化理解と日本文化・平和ー



## ★記念シンポジウム

日時：2026年11月13日(金)14時～16時30分
会場：千葉大学けやき会館1階大ホール

## ★パネル展示「写真でたどる日米人形交流」

日時：2026年11月9日(月)～13日(金)
会場：千葉大学アカデミック・リンク・センター
N棟1階 展示スペース

入場無料
事前予約不要

主催：国立大学法人千葉大学、渋沢研究会
共催：一般社団法人国立大学協会、公益財団法人渋沢栄一記念財団、国立大学法人岡山大学、
千葉大学研究会「公正社会研究の新展開ーポストコロナ時代の価値意識と公共的ビジョン」
後援：外務省、米国大使館
協力：横浜人形の家

CHIBA UNIVERSITY

フェスタ 国立大学2026

# 100年前の日米人形交流から平和や親善交流、多文化共生などの課題を見つめてみよう

【日米人形交流とは】
1927(昭和2)年、約1万2千体の“友情人形”(Friendship-Doll)、いわゆる“青い目の人形”がアメリカの子どもたちから日本へ贈られ、文部省を通じて各地の小学校・幼稚園に配布され、その返礼として日本から子どもたちからの寄付をもとに製作された58体の“答礼人形”(日本人形)を贈った出来事をいいます。
日系移民問題で悪化した日米関係改善をめざす民間人（米国より社会事業家のギューリック・日本より事業家の渋沢栄一）の情熱により実現し、初の民間レベルの大規模かつ先駆的な国際文化交流で、人形というプレゼントを交換する共同作業を通じて、お互いの国の文化や生活への理解を深めることで、両国民の世論の改善と融和を図るとともに、世界平和の夢を未来の子どもたちに託した点で、多くの教訓と示唆を後世に伝えています。

## 【シンポジウム】

★あいさつ
＊横手幸太郎　千葉大学長
＊和田　健　　千葉大学国際教養学部長
＊渋沢田鶴子　公益財団法人渋沢栄一記念財団副理事長、千葉大学経営協議会委員
＊サンシャイン・アイソン　米国大使館広報・文化交流部文化交流担当官

★基調報告
＊日米人形交流と千葉大学の貢献　是澤博昭　大妻女子大学教授
＊日米親善交流と平和　宮崎広和　米国・ノースウェスタン大学教授
＊文化財としての日米交流人形 ―ナンシー・メリー人形の事例から―
須賀隆章　佐倉市魅力推進部文化課学芸員
＊現代の日本人形―フィギュアと玩具業界―
佐藤明宏 (株)メガハウス代表取締役社長

★学生発表
・世界の人形劇とその多様性　インドネシア、ベトナム、日本（国際学生会：ＣＩＳＧ）の学生
＊モデレーター　見城悌治　千葉大学国際学術研究院・国際教養学部教授
・答礼人形「ミス岡山」と対面して想う日米人形交流　岡山大学学生

★パネルディスカッション
◎テーマ「日米人形交流からのメッセージ―多文化共生社会下での千葉―」
◎パネリスト
＊宮崎広和　米国・ノースウェスタン大学教授
＊是澤博昭　大妻女子大学教授
＊須賀隆章　佐倉市魅力推進部文化課学芸員
＊佐藤明宏　(株)メガハウス代表取締役社長
＊荒川史康　米国・インディアナ大学准教授
＊高光佳絵　千葉大学国際学術研究院・国際教養学部教授
＊モデレーター：石戸光　千葉大学副理事・国際教養学部副学部長

★あいさつ　飯森明子　渋沢研究会運営委員

★閉会挨拶
＊小澤弘明　千葉大学理事

## 【パネル展示】

＊1927年の日米人形交流
＊東京高等工芸学校(現：千葉大学工学部)の貢献
＊千葉県に残る友情人形たち

### 千葉県に残る友情人形たち


アリス・プレーブル
(山武市立成東小学校所蔵)


アンヌ・ノーブル・ラメルサンガール
(君津市立久留里城址資料館所蔵)


ナンシー・メリー
(佐倉市所蔵)